

| 問題番号 | 設問番号 | 設問内容 | 正解 | 補足 | 考え方 |
|-------------------------------|--------|--------------------------------------|----|--|--|
| | Q1 | 空所 [Q1a], [Q1b] の補充 | 2 | None / all | 筆者はマートンの思想を高く評価しており、「名前はともかく、中身は全て素晴らしい」と強調するために None / all の対比が正解となります。 |
| | Q2 | 空所 [Q2] の補充 | 2 | disinterestedness | 空所の直後の説明 (scientists aren't in it for the money... to advance our understanding...) に注目します。「金銭、政治、私欲のためではなく、純粹に真理のために動く」という態度は、日本語で言う「無私無欲」や「客観性」を指します。 disinterestedness は「公平無私、客観性」という意味で、マートン規範の4つ目（無私性）として有名です。 |
| | Q3 | 空所 [Q3] の補充 | 4 | social | 第2段落の [Q3] の後には、 communality (共有性: 知識を皆で分かち合うこと) が説明されています。また、第6段落の [Q3] は、他者による corroborated by multiple observers (複数の観察者による裏付け) と関連しています。・「他者と関わる」「コミュニティ全体で共有する」という側面を指しているため、 social (社会的な、社会性の) が最適です。 |
| | Q4 | 下線部 "the shoulders of giants" の意味 | 1 | | ニュートンの有名な言葉「巨人の肩に乘る」は、「先人たちの積み重ねた知識や発見があるからこそ、自分たちはより遠く（先）を見ることができる」という意味です。・選択肢1の "adding together the knowledge and efforts of previous thinkers over time" が正にこの概念を説明しています。 |
| WAQ A-1 WAQ A-2 WAQ A-3 | | | | flip-flopping | 古シナリオの内容: 臨床試験において、患者の苦痛に関する方針が「厳格な基準 (strict)」と「緩和された基準 (relaxed)」の間を「何度も往ったり来たりした (shifted repeatedly back and forth)」とあります。・理由: 「意見や方針がコロコロ変わる」という状況に最も合致するのは flip-flopping です。この単語は、政治家などが一貫性のない態度を取る際にもよく使われる批判的な言葉です。 |
| | | | | a lump to my throat | 古シナリオの内容: 長年の実験の末に確かな結果が得られ、科学者が「強い感情の波 (strong wave of emotion)」を感じ、「非常に個人的で勝ち誇った瞬間 (personal triumphant moment)」であったと描かれています。・理由: 強い感情や感銘を受けて、言葉に詰まるような胸がいっぱいになる状態を表すのは a lump to my throat です。 |
| | | | | pay lip service | 古シナリオの内容: 「公式なルールはあるが、実際には守られていない (very little oversight to make sure such rules are actually followed)」、「公表されている方針とは裏腹に、研究者はデータを共有しない」という状況です。・理由: 「口先では立派なことを言っているが、行動が伴っていない（うわべだけの敬意）」という状態を指す慣用句は pay lip service です。 |
| | Q5 | 第1~3段落の内容一致 | 2 | | 老練学者が15年間の自説で「間違いだった」と認めた瞬間は、まさに科学的知識が「修正」された瞬間です。これが科学の進歩における本質的なプロセスであると筆者は述べています。・正解が「2」であることは、「科学は常に疑いにさらされ、より良い証拠の前には謙虚であるべきだ」という、この文章全体のメインテーマの一つと直結しています。 |
| | Q6 | 第4~6段落の内容一致 | 3 | | ・1は「異なる結果が出来れば信頼できる」となっているので逆（一貫性が必要）。・2は「サイン入りの白書を配った」が誤り（目撲者に宣誓証言させたのが正解）。・3が正解: 第6段落で「複数の観察者によって裏付けられる (corroborated by multiple observers)」初めて真剣に受け止められる」とあり、科学の再現性と相互確認の重要性が述べられています。・4は「現在も再現性は完全に守られている」としていますが、本文末では「現代の出版システムにより信頼できない研究が増えている」と批判されています。 |
| | Q7 | 空所 [Q7a], [Q7b] の補充 | 2 | confuse / enlighten | 最後の文は、理想が崩れ、信頼できない研究が増えた現状を嘆いています。・“do more to [Q7a] than [Q7b]” ([Q7b] するよりも [Q7a] してしまっている) という構造です。・人々を啓発する (enlighten) よりも、混亂させる (confuse)』というネガティブな結果を述べるが文献に合致するため、 confuse / enlighten の組み合わせになります。 |
| | Q8 | 著者の主張（メインクレーム） | 2 | | 文章全体を通して、科学の理想（マートン規範）と、特に「再現性（replication）」の重要性を説きつつ、現代の出版システムや競争がそれを阻害していることを批判しています。・選択肢2の“Reproducible research is crucial... yet an increasing number of recent studies fail to meet this standard.”（再現可能な研究は極めて重要なが、最近多くの研究はその基準を満たしていない）が、文章の結論部分（第6段落後半）と完全に一致します。 |
| II | Q9 | 空所 [Q9] の補充 | 2 | carrier | 第1段落の文脈を確認します。DNAについて、科学者たちが「遺伝情報の [Q9]」として認識し始めた時期であると述べられています。DNAは遺伝情報を運ぶ役割を持つため、 carrier (運搬体、媒介) が最適です。 |
| | Q10 | 第2段落の内容一致 | 4 | | 第2段落では、フランクリンのDNA研究は彼女の全業績の一部に過ぎないが (represent only a small part of her scientific work)、DNA構造の発見において重要な役割 (played a key role) を果たしたとあります。・選択肢4の「DNA研究は彼女の仕事の小さな一部だったが、DNA構造の発見には極めて重要だった」という記述が一致します。・他の選択肢は「全キャリアを通じて Klug と協力した（後半のみ）」や「ワトソンらは独立して発見した（彼女のデータからヒントを得ている）」など、本文と矛盾します。 |
| | Q11 | 第3段落における倫理的問題 | 5 | | 第3段落では、科学的倫理の観点から「クレジット (功績の帰属)」と「許可」について触れています。・批判者たちは、ワトソンとクリックが「彼女の知らないところで (without her knowledge)」データを使用し、「十分なクレジットを与えるなかった (never fully gave credit)」と主張しています。・これを反映しているのが選択肢5です。 |
| | Q12 | 第4段落: フランクリンを巡る論争の推論 | 5 | | 第4段落では、彼女に対する差別があったとする Sayre の意見と、差別が主要な要因ではないとする Judson の意見の両方が紹介されています。・最後に「性差別が彼女のキャリアにどの程度影響したか」という疑問は、今日でも議論的 (remains controversial today) である」と結ばれています。・選択肢5の「継続的な議論の主題である」が正解です。 |
| | WAQ B1 | 内容一致の単語（第5段落） | | contest | 「race (競争)」と同じ意味の言葉を第5段落から探しします。・第5段落冒頭に “she was participating in a contest ” (彼女は競争に参加していた) とあり、続く第6段落でもこの状況を “undeclared race” と呼んでいます。 |
| | Q13 | 下線部 “another event” (第6段落) の指す内容 | 1 | Gosling showed Photo 51 to Wilkins. | 下級部直後のワトソン（以下）に降り具体的な内容が書かれています。・「Raymond Gosling が Photo 51 (DNAの鮮明なX線写真) を Maurice Wilkins に見せた」ことが説明されています。 |
| | Q14 | Raymond Gosling の行動に関する記述 | 4 | | ・第6段落で、Gosling はフランクリンの許可を求めなかったが、その必要はないと考えていたとあります。・理由は「その写真是彼女のものであると同時に彼のものでもあり、彼女が去った後もラボで続く研究の一部だったからです。」・選択肢4がこの理由を正確に説明しています。 |
| | WAQ B2 | 下線部 “ill-fated effort” の和訳（第8段落） | 1 | 失敗に終わった努力／徒労（など） | 下級部 “struck Watson like a thunderclap” (第9段落) の意味 |
| | Q15 | | 5 | | ・直喻表現「雷鳴（一撃）のようにワトソンを打った」は、非常に大きな衝撃と突然のひらめきを意味します。・本文でも「見た瞬間に口が開き、脈拍が速まった」とあり、DNAがヘリカス（螺旋）構造であるという明確な確信を得たことが描写されています。・選択肢5の「突然の、深く、啓示的な影響を与えた」が適切です。 |
| | WAQ B3 | 整序問題（第10段落） | → | He [felt] [that] he now [had] [the] [basic] [information] he [needed] [to] [begin] building a new model. | ① He felt that - 「彼は～と感じた」という主節 ② he now had the basic information - 「彼は今、基本的な情報を持っていた」という從属節 ③ he needed to begin - 関係代名詞that(省略)+関係代詞 |
| III | Q16 | フランクリンが独自に発見しかけていたこと（第11段落） | 4 | | 選択肢5と迷いやすいですが、選択肢4は「3次元構造全体 (entire three-dimensional structure)」を含んでいます。 |
| | Q17 | もし適切な協力者がいたらどうなっていたか | 5 | | ・第11段落の最後で、Klug, Gosling, そしてワトソンまでが「もし彼女が相性の良い協力者（ワトソンとクリックのような関係）と働いていたら、ワトソンたちよりも先に独立してDNAの最終構造を解明していただろう」と述べています。・選択肢5の「ワトソンとクリックよりも前に、独立してDNAの最終構造を解明していたかもしれない」が正解です。 |
| | Q18 | 空所 [Q18a], [Q18b] の補充 | 5 | prior / patient | ・医療現場での「coordination」という単語と結びつく目的を検討します。・小児科専門医に従事する著者は、単なる事務的な「care coordination (ケア調整)」だけでなく、複雑な状況にある「patient coordination (患者の調整・連携)」に忙殺されていると表現しています。・選択肢4の“care”も医療用語として成立しますが、このエッセイの主題は「システムの中で一人の人間（患者）が置き去りにされていること」への抵抗です。そのため、文献上「患者一人ひとりの調整」を意味する patient coordination が選ばれるべき、という非常に深い読解が求められる設問でした。 |
| | Q19 | 空所 [Q19] の補充 | 2 | the sting of | ・文脈は「自分の仕事が予算の一行に還元され、低い診療報酬に脅かされる」というネガティブな状況です。・誇り (pride) や満足 (satisfaction) ではなく、そうした状況による「痛み・不快感」を表す the sting of (～の痛み、刺すような不快感) が文脈に合致した比較表現となります。 |
| | Q20 | 空所 [Q20] の補充 | 1 | quiet biases | ・空所の直後に、内科医著者の小児科志望を開いて「本気？どの分野にでも行けるのに（もっと上の科を目指すべきでは？）」と反応する場面があります。・これは小児科を「野心のない人が行く、単純な分野」と見なす、医療界内部の「静かな偏見」を指しているため、quiet biases が正解です。 |
| | Q21 | 第2段落の内容一致 | 3 | | ・第2段落の後半で、小児科は「simple, soft (単純で、柔軟な) 分野、あるいは「somewhat less (どこか苦った)」がその趣向を正確に説明しています。・これを言い換える「小児医療は単純 (straightforward) で一層 (second-class) のものと見なされることがある」という選択肢5が一致します。 |
| | Q22 | 第3段落の内容一致 | 1 | | ・第3段落では、小児科には「知的な厳格さ (intellectual rigor)」と「感情的な強さ (emotional strength)」の両方が求められるとして述べられています。・選択肢1の「小児科医療には、知性と感受性 (intelligence and sensitivity) の両方が必要である」とその趣向を正確に説明しています。 |
| | Q23 | 空所 [Q23] の補充 | 5 | | ・直前の文脈で、小児科の患者は非常に複雑な特徴 (complex physiologies) を持っています、「（たとえ経験豊富な）臨床医であっても困難を感じる」というニュアンスになります。・新人 (freshman, novice, rookie) ではなく、「経験豊富な、熟練した」を意味する seasoned が適切です。 |
| | Q24 | 空所 [Q24a], [Q24b] の補充 | 2 | | 第5段落で、障害を持つ子供の価値が問われる場面です。著者が深く関わった患者の描写として、単純 (plain, shallow) なものではなく、医学的・存続的に「重大な、深刻な (profound)」障害や「複雑な (complex)」背景を持つとするのが一般的です。 |
| | Q25 | “interdisciplinary” の定義（第5段落） | 1 | | ・ interdisciplinary は「多職種連携の、学際的な」という意味です。・選択肢1の「医療の様々な分野の人々が集まり、行動方針について相談する」という説明が語義に最も近いです。 |
| | Q26 | 第5段落最後の文の意味 (shouting into the wind) | 2 | | ・「風に向かって叫ぶ (shouting into the wind)」は、いくら声を上げても聞き届けられず、無駄な努力をしているような「虚しさ」を表現しています。・選択肢2の「システムに深く根ざしたものを変えようすることは、時として虚しい、大きな苦闘になり得る」という説明がその比喩的な意味を捉えています。 |
| | Q27 | 第6段落の内容一致（女性医師としての経験） | 4 | | ・第6段落では、女性医師の「共感 (empathy)」が単なる「感情 (emotion)」と誤解されたり、「擁護 (advocacy)」が「攻撃的 (aggressive)」と見なされたりする苦勞が語られています。つまり、医療従事者が「どのように見られるか」において性別による違い (偏見) が存在することを指摘しており、選択肢4が正解です。 |
| | Q28 | “to hold space”的意味（第4、7段落） | 1 | | ・ hold space は「批判したり解決を怠りだせ!」その人のために寄り添い、感情を受け止める場を作る」という意味の心理・医療用語です。・選択肢1の「患者のために安全で支援的な環境を作ること」がこの概念を説明しています。 |
| | Q29 | 第8段落の内容と一致しないもの (FALSEを選択) | 1 | | ・第8段落で著者は、Moral injury (モラル・インジュリー: 道徳的の負傷) やシステムの不適さに「恐れ」や「不安」を抱いていると述べています。・選択肢1は「子供たちへの誠実で思いやるのあらケアは、必然的に (inevitably) 進化される」としていますが、本文ではそれが非常に困難で危機的な状況にあることが強調されているため、これが「誤り (FALSE)」となります。 |